

平成 25 年 9 月の解説（府県天気予報）

【9 月の天候状況】

上旬は、秋雨前線が本州付近に停滞し、沖縄・奄美を除いて全国的に曇りや雨の日が多くなりました。日本の南東海上で勢力を強めた太平洋高気圧の縁をまわって湿った空気が流れ込んだほか、九州に上陸した台風第 17 号の影響も加わり、1～4 日は、西日本の各地で大雨となりました。また、2 日に埼玉県で、4 日には栃木県で竜巻が発生しました。沖縄・奄美では、1～3 日に台風第 17 号の影響で雨が降りましたが、その後は高気圧に覆われて晴れの日が続きました。旬平均気温は、西日本でかなり低くなりました。旬降水量は、東日本日本海側と西日本ではかなり多くなりました。

中旬は、旬のはじめと終わりは高気圧に覆われて全国的に晴れとなった日もありましたが、15～16 日は、東海地方に上陸して三陸沖に抜けた台風第 18 号とその北側に停滞していた秋雨前線の影響を受け、北日本から西日本にかけての広い範囲で大雨となりました。福井県、滋賀県、京都府では記録的な 48 時間降水量となって大雨特別警報が発表され、北日本から西日本の各地で河川の氾濫や土砂崩れなどの災害が発生しました。また、この台風に伴い、和歌山県から北海道に至る 7 道県で竜巻等の突風が計 12 個発生しました。旬平均気温は、沖縄・奄美では 1961 年以降で最も高くなりました。旬降水量は、北日本日本海側ではかなり多くなりました。

下旬は、東・西日本では、高気圧に覆われて晴れた所が多くなりました。一方、南からの湿った気流の影響で太平洋側では雨の日もあり、関東地方では台風第 20 号が南海上を北東進した影響で、24～26 日は曇りや雨となりました。北海道では、24～25 日に前線の活動が活発となり、まとまった雨となりました。沖縄・奄美では、21 日に台風第 19 号の影響により曇りや雨となりましたが、その後は高気圧に覆われて晴れの日が続きました。旬降水量は、東・西日本でかなり少なくなりました。

月平均気温は、沖縄・奄美ではかなり高くなりました。月降水量は、東日本日本海側ではかなり多くなりました。月間日照時間は、東・西日本ではかなり多くなり、水戸（茨城県）、甲府（山梨県）、鳥取、姫路（兵庫県）など 8 地点では 9 月の月間日照時間の多い方からの 1 位を更新しました。

【9 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より 8 ポイント高い 89%で、明後日予報は例年値より 8 ポイント高い 85%でした。各地方の適中率では、明日予報・明後日予報ともに全国的に例年値より高く、明日予報では四国・中国・近畿・北陸・東海地方で 11～15 ポイント高く、明後日予報は四国・中国・近畿・北陸・東海・北海道地方で 10～16 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.3℃小さい 1.5℃でした。各地方の予報誤差では、概ね例年値より小さく、近畿・東海・関東甲信地方では例年値より 0.5℃小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均では例年値と同じ 1.3℃でした。各地方の予報誤差では、概ね例年値と同程度でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【11 月の天気予報の利用にあたって】

次第に冬型の気圧配置の頻度が増え、日本海側ではしぐれ、北日本ではみぞれや雪の日が多くなります。降水が雨となるか、みぞれや雪となるかは、地上や上空の気温及び湿度などの状況によって決まります。11 月は本格的な冬季よりも気温が高いため、降り始めは雨でも次第にみぞれや雪に変わったり、逆にみぞれや雪が雨に変わったりします。

雪は、降れば視界が悪くなり、積もれば路面が滑りやすくなるなど、降水量が少なくても交通や生活に大きな障害となります。最新の気象情報を早期の対策に活用して下さい。